

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	エフビー介護サービス	代表者	柳澤 美穂	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・法人共通介護方針として、①個別ケア、②認知症ケア、③看取りケア、④地域ケアの4つのケアを大切に、地域に密着した介護改革と社会貢献を目指す。 ・有料老人ホーム併設の特性を生かし、在宅で支えきれなくなった高齢者をなじみの関係性の中で継続してケアすることができる。 ・市街地から離れた田畑の中に立地し、静寂な環境の中で過ごすことができる。 ・高速インター近く、県外などからの車の移動に適している。
事業所名	小規模多機能 あったかほーむエフビー 日高	管理者	北澤 綾美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・現在通常化した小ミーティングの実行を継続。 ・ケアプラン内容を職員が把握、内容を周知しやすいよう日々の朝礼の場でケアプランの説明や内容の確認、モニタリングをスタッフ全体で行ってゆく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や夕礼での報告や検討、リーダー中心に数人集まったの小ミーティングが普通にできるように変化した。 PDCA サイクルによって検討できている。 ・登録者数が多い間は管理者、ケアマネが介護現場で稼働することが多く、専門業務に十分な時間が取れなかったが、稼働が減ったところでケアプランの見直しをスタッフと確認しながら行えるようになった。 		<p>前回の改善計画の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在通常化した小ミーティングの実行を継続。 ・ケアプラン内容を職員が把握、内容を周知しやすいよう日々の朝礼の場でケアプランの説明や内容の確認、モニタリングをスタッフ全体で行ってゆく。 <p>今回追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を知らないというスタッフの回答が毎年多いため、ケアプラン確認ファイルの中に地域資源が一目でわかる図式や行政の取り組み一覧を一緒に綴り、次年度は地域資源が分からないという回答がないようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄物の臭いが居住空間に漏れないよう汚物室の扉は閉める癖付けと、排泄介助後の居室の空気の入替えをしっかりと行う。 ・会社の文化である環境整備に基づき、日々の清掃により心地よい生活空間を保つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚物室の扉のルール付けは職員に浸透しエレベーターホールの匂いの漏れは改善した。コロナ対策も相まって換気も一時間ごとに徹底して行っている。 ・見学があると必ずきれいな環境を保っているとお褒めの言葉をいただける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日々環境整備の徹底と感染対策兼ねたこまめな換気の継続。 ・経年劣化で至る所に不具合が生じているが、経費予算で応じられる修理から優先順位をつけて設備改善してゆく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ情勢の動向により地域の関わりも変化してくると思うが、以前の生活様式に戻ってきた時には積極的に地域に出向き、またボランティアの受け入れも行ってゆく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続きコロナ感染の動向により地域との関わりは積極的に図れていないが、近隣の方から野菜のおすそ分けや新高尾地区民生委員からの頂き物など交流は行っている。 ・そのほか項目Eと同じ内容。 		<ul style="list-style-type: none"> ・去年達成できなかった地区文化祭への参加をリベンジする。 ・ボランティア受け入れや地域交流の場としての事業所の解放等、法人の判断に沿ってとなるが、可能なことは行ってゆく。

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を取りながら人の密になる場へ出向くことが出来なくても、利用者様の思い出のある地域にドライブに出かけ気分転換を図る。 ・掲げた取組みが行えるよう、黒字運営と離職防止は継続してゆく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員不足とコロナ感染対策で外食の機会は持てなかったが、可能な時にドライブに出かけることはできた。 ・利用者数が順調に伸び年度内黒字化となるかと思われたが、コロナクラスターを機に登録者数が減り、年度内に元の水準に戻すことができなかった。 ・離職者は1名のみにとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を行った状態で密にならない室外外出レクをこまめに取り入れてゆく。 ・困難事例方などはその地域のアんしんセンターと協働してもらい、地域ケア会議など必要に応じて開催につなげ地域との情報共有を図ってゆく。
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ情勢の動向により変化はあると思うが、地域の活動（廃品回収や運動会の見学など）に可能な範囲で参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員からのお誘いがあり、地区文化祭への出展準備を進めていたが、開催前に事業所でコロナ感染クラスター発生し、残念ながら今年度地域に赴くことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度より運営推進会議は事業所開催に変更し、3年途絶えていた地域との直接情報共有や地域へ出向く機会の確保に努める。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内一斉自然災害訓練と年2度の避難訓練と消火訓練を行ってゆく。 ・コロナ情勢次第だが地域の防災訓練の情報を得て参加できるように、できなくても地域避難場所の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2度の自然災害訓練と防災訓練は消防設備点検を兼ねて行っている。運営推進会議書面開催資料内で活動報告として記載。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を活用して委員の方も事業所の防災訓練に参加していただけるよう協力を仰ぐ。 ・災害時用非常食の備蓄をしていないので、水や乾パン等ストックをしておく。